

大阪国語教育アセンブリー2014参加者の感想（一部抜粋）

【全体会について】

* 作家の方に直接お話をうかがえる機会なんてめったにないので、本日は貴重な機会を作っていただきありがとうございました。また、ひとつの小説を作家さんと教師という様々な立場で会話できそれを聞くことでたくさんの刺激をいただきました。ありがとうございました

* ・「今が一番の働きざかり」を心に、がんばろうと思いました。

・ちゃんと書くこと…を考え続けたく…思います。

・津田先生や湯峯先生のお話も聞けてよかったです。

* 教材を教えた先生と、作家の先生が同じ場で意見交換しているというのは初めて見ました。教授者と作家の読みが、結果として重なる部分が多くあったことは興味深かったです。

* 第一回のアセンブリーも参加すべきであったと思うと、残念でなりません。来年度もよろしくお願いします。是非参加させて頂きたいと思います。今回はめったにない企画でおもしろく参加させて頂きました。教材化された自作品にコメントするなど、大抵の作家は避けようと思っていたので、そういう意味でも津村氏はこれからの作家であると思います。

* 作家のお話を伺える…本当におどろきの機会でした！！ 教材をつくる者と原作を書かれた方の対話は、すごく感動的で面白かったです。お話の中で「意図的に誰とも出会わせていない。今ある人間関係の中でも誰かが気づかないうちに気にかけてくれていたり、自らが立ちなおろうと（孤独の中で）努める力を大切にしたい」という点で感銘を受けました。暗い小説とおっしゃいますが、是非まずは自分が読んだ上で生徒に読ませたいと思います。〈自由なよみ〉ももっと大切に、皆で共有させねば、と改めて考えさせられました。

*作家の方にお話を聞く機会はこれまでになく、非常に貴重な経験であった。林出先生がおっしゃった、問いを立てた以上は答えを教授者が持つ責任があるという言葉が印象に残った。

*作家の方のお話を伺うのは初めてでしたが、作品が書かれた背景や設定の意図を聞くことができ、作品をより深く味わうことができました。実際に教材として使用したプリントを拝見して、書籍であったものが、教材となっていたことに驚きました。主人公の年齢は生徒より高いですが、日常で考えさせられるテーマなので、授業で取り上げるとおもしろいのではないかと思います。

*非常におもしろかったです。津村さんが正直に話されている様子が印象的でした。「小説の力」を改めて感じました。

*書き手と読み手の考える・感じることには大きな差があり、読み手の勝手な解釈を授業で話しても良いのだろうかという疑問を抱きました。

*「ありのままの人間関係だけで人間は変わる」という作家の津村さんの言葉がとても印象的でした。特別な人との対話だけでなく、身近な人とのなにげない対話からも十分人は考え、行動していけるものだと改めて感じました。

*「仕事だから書いている。書きたいように書いている。」という津村さんの言葉が印象的でした。「何でこんなしんどい仕事（教員）をしてるんやろう」と思いながら「国語を教えたいから教えている」のと少し似てるかと何か安心しました。

*作家の方に小説のテーマ、作品の意図を伺えたのはたいへん貴重で興味深い体験でした。国語教育のユニバーサル化、今後意識したいと思います。

*津村先生のお話も、それを教材化なさった林出先生のお話も興味深く、会場からの質問を含め、まさに対話になっていました。色々な視点（小説についての）をお教え頂き、ありがとうございました。

*若い高校生の時期に「気持ちのいいものだけを読まないで、ちょっと手強い、むずかしい、（または後ろ向きな？）ものを読んだ方がいい」という津村さんのことばにはっとさせられました。実際私も高校の時に学んだ作品の内容について、今になってその重要性に気づかされたりすることが多いです。また、そういった経験を通じて、もっと高校生の時に自分にとって手強いものにチャレンジしておけばよかったなという後悔もあります。自分が教員として関われる生徒にはそのような機会をたくさん与えることができるようになりたいです。

【分科会について】

第1分科会

*グループ学習（活動）での発問の仕方についてのご提案には「はっ」とさせられました。私自身ではそのような発想がなかったからです。各班から出された4つの観点の意見を、全体ではどのように確かめ合い学びを深めていかれたのかと思いました。

第2分科会

*真剣に本文を読み、考え、討論し、大変密度の高い1時間でした。生徒達にもこのように達成感、自分でやったという実感のある授業を是非体験させたいと思いました。このように鮮やかな授業は難しいですが、少しでも生徒が自分の力で読み考えられる授業に取り組みたいと思います。

第3分科会

*小説が国語の授業で必要かということについて、教師自身が必要な理由を用意しておかなければならないとお話がありました。学ぶ理由を教師が明確

にし、舞姫などの文学的な作品について、生徒の学力に合わないとすぐやめてしまうのではなく、時間をかけてでも学習の機会をもたせ、生徒に学んだ達成感をもたせることも大切だと思いました。

第4分科会

* “感じたことは忘れない”のお言葉がとても印象的でした。生徒の心を揺さぶるような授業をやることができるよう私自身ももっともっと教材研究をしなければ…と思いました。有り難うございました。

第5分科会

* 「圧縮・解凍」という説明で、ライトノベルに対して何かおもしろくないと思っていた気持ちがすっきり“解凍”しました。私の中学時代にもラノベがあったら…と残念です。児童文学から大人文学への架け橋としてラノベはありがたいジャンルだと思いました。

第6分科会

* 2学期以降の授業で聞き書きを取り入れようと考えていたので、大変参考になりました。実際、聞き書き（インタビュー）を行う前に、事前学習をしておさえておくべきポイントに気をつけて、実践していきたいと思いません。